



科学・芸術・宗教の対話が見つめる
一二〇〇年後の世界とは。

高野山會議

K O Y A S A N

C O N F E R E N C E
2023

報告レポート

高野山會議2023報告レポート

発行日：2024年3月22日

編集・発行：東京大学先端科学技術研究センター
先端アートデザイン分野

住所：東京都目黒区駒場4-6-1

連絡先：secretary@aad.rcast.u-tokyo.ac.jp



東京大学 先端科学技術研究センター
Research Center for Advanced Science and Technology
The University of Tokyo



高野山會議

INDEX

高野山会議とは	…	03
スケジュール	…	05
セッションレポート	…	09
Arts & Performances	…	19
分科会レポート	…	23
高野山麓エクスカーショ	…	25
高野山宣言	…	27
学校訪問コンサート	…	28
高野山会議2023協賛 AADパートナー企業	…	29
Special thanks	…	30



Location: 金剛峯寺庭園 蟠龍庭

高野山會議とは

私たちは、科学や技術から多くの恩恵を受け、今の社会を築き上げてきました。一方で、自然に大きな負荷をかけた結果、気温上昇による異常気象、資源の枯渇、さらにはエネルギーの問題をはじめとする地球規模の課題を生み出しました。この原因の1つは、私たちの自然に対する考え方によるもので、人が自然を制御するという、人を中心(Human-centered)として自然を捉えてきた点にあると思います。一方で、人も自然の一部であり、自然と共に生き、そして生かされているという考え(Nature-centered)も私たちの心の奥底にあるのではないのでしょうか。多様な人々、そして多様化する社会においては、最適な1つの答えを出すだけではなく、場に応じた多様な答えを出していくことが求められています。弘法大師空海は、世の中には無駄なものはなく、あらゆるものに価値や意義があり、それぞれの関係において宇宙が成り立つことを教えてくれます。そして、その思想が1200年にわたり持続的に受け継がれてきた場が高野山です。科学、芸術、デザイン、哲学、そして宗教など多様な分野に関わる人々が集い対話し、人間性と倫理観ある未来、1200年後の世界を考え、形にする舞台として、高野山はすばらしい場です。未来の形を皆さんとともに先端研は「高野山會議」として世界に発信していきます。

高野山會議ファウンダー
東京大学先端科学技術研究センターシニアリサーチフェロー

神崎亮平

高野山會議2023

日程：2023年7月13日～7月16日
場所：金剛峯寺 / 高野山大学 等
主催：東京大学先端科学技術研究センター
共催：和歌山県 / 高野町 / 高野山真言宗総本山金剛峯寺 / 高野山大学
参加者数：638人 延べ2000名程度(コンテンツ別参加者及び関係者)

【これまでの歩み】

高野山會議2021
日程：2021年11月26日～11月28日 場所：金剛峯寺、高野山大学
一部ハイブリッド方式にて実施

高野山會議2022
日程：2022年6月30日～7月3日 場所：金剛峯寺、高野山大学

【題字】 添田隆昭

What is the Koyasan Conference?

We have benefited from science and technology, and built the society we live in today. On the other hand, as a result of putting a great burden on nature, we have created global challenges such as abnormal weather due to rising temperatures, depletion of resources, and energy issues. One of the causes of this is our way of thinking about nature, which is human-centered, meaning that we have perceived nature as something to be controlled by humans. On the other hand, there is also a way of thinking that humans are part of nature, and that we live with and are sustained by nature (nature-centered), which may be deep in our hearts. In a society where people and situations are diverse, we are required to not only provide one optimal answer, but also to provide various answers according to the situation. Kobo Daishi Kukai teaches us that there is nothing useless in the world, that everything has value and meaning, and that the universe is formed by the relationships of each thing. And Koyasan is the place where this thought has been sustainably inherited for 1200 years. Koyasan is a wonderful place as a stage where people from various fields such as science, art, design, philosophy, and religion gather and dialogue, and think and shape the future with humanity and ethics, and the world 1200 years from now. Research Center for Advanced Science and Technology will send out the shape of the future with the people to the world as the “Koyasan Conference”.

Koyasan Conference Founder
Research Center for Advanced Science and Technology Senior Research Fellow

Ryohei Kanzaki

Koyasan Conference 2023

July 13 - July 16, 2023 at Kongobuji, Koyasan University, etc.
Organized by: Research Center for Advanced Science and Technology, the University of Tokyo
Co-organized by: Wakayama Prefecture / Koya Town / Kongobuji / Koyasan University
Number of participants : 638 persons Total: about 2000 persons (participants and related persons by content)

【Previous Conference Dates】

Koyasan Conference 2021
November 26 - November 28, 2021 at Kongobuji, Koyasan University, etc.
(online and in person)
Koyasan Conference 2022
June 30 - July 3, 2022 at Kongobuji, Koyasan University, etc.

【Title】 Ryusho Soeda

スケジュール

DAY 1

12:30-13:00

受付

13:00-14:45

開会式

@金剛峯寺新別殿

開会宣言

東京大学先端科学技術研究センター所長・教授 杉山正和

ホスト挨拶

金剛峯寺執行長・高野山真言宗宗務総長 今川泰伸

高野町長 平野嘉也

SESSION 00

フラッシュセッション
「高野山会議2023の楽しみ方」

進行

東京大学名誉教授・東京大学先端科学技術研究センター シニアリサーチフェロー
先端アートデザイン分野研究統括 神崎亮平

15:00-17:00

SESSION 01

和の芸術とデザイン
THINKING WITH NATURE

@金剛峯寺大会議室

統括

デザイナー、東京大学先端科学技術研究センター特任准教授 伊藤志信

登壇者

中川木工芸・比良工房主宰(木桶職人) 中川周士

ミラノ大学准教授、AADアドバイザー Rossella Menegazzo

17:30-17:50

木桶デモンストレーション

@黎明館

18:00-20:00

高野山会議 2023 公式レセプション

@高野山大学 黎明館ロビー

ホスト挨拶

和歌山県知事 岸本周平

金剛峯寺第524世寺務検校執行法印・高野山大学長 添田隆昭



DAY 2

8:00-8:45

朝のエクスカーシオン

@根本大塔-壇上伽藍

9:00-11:00

SESSION 02

インクルーシブデザイン

@金剛峯寺大会議室

統括

デザイナー、東京大学先端科学技術研究センター特任教授 伊藤節

登壇者

東京大学先端科学技術研究センター准教授 並木重宏

筑波大学・札幌市立大学 名誉教授 蓮見孝

11:30-18:00

高野山麓エクスカーシオン

コースA 橋本市高野口

- ・高野口小学校(重要文化財)視察及び意見交換
- ・妙中パイル視察
- ・旧葛城館(登録有形文化財)視察

コースB かつらぎ町天野

- ・丹生都比売神社
- ・交流会 地域交流センター「ゆずり葉」
- ・講話およびワークショップ

19:30-21:00

澤クワルテット特別演奏会

@金剛峯寺新別殿

演奏

澤クワルテット

曲目

A.ウェーバーン 弦楽四重奏曲(1905)

L.v.ベートーヴェン 弦楽四重奏曲第13番 Op.130「大フーガ付き」



DAY 3

9:00-11:00

SESSION 03

次世代育成 ～STEAM 教育と芸術環境創造～ @金剛峯寺大会議室

統括

ヴァイオリニスト、東京大学先端科学技術研究センター特任教授 近藤薫

登壇者

声楽家、東京音楽大学教授、東京音楽大学付属高等学校長 小森輝彦
横浜みなとみらいホール館長、東京藝術大学客員教授 新井鷗子
株式会社JERA 代表取締役社長 CEO兼COO 奥田久栄

11:30-12:15

コンサートシリーズ meets @金剛峯寺本坊

演奏

東京フィル弦楽四重奏団

曲目

A.ドヴォルザーク 弦楽四重奏曲第12番 Op.96「アメリカ」

13:30-15:00

分科会A @恵光院 宇宙とテクノロジーとデザイン

分科会B @報恩院 自然と共生するまちづくり ～里山から聖域・霊場まで～

分科会C @金剛峯寺 包摂社会のためのコデザイン

15:30-17:30

SESSION 04

高野山のまちと人 @金剛峯寺大会議室

統括

デザイナー、東京大学先端科学技術研究センター特任准教授 吉本英樹

登壇者

学校法人高野山学園法人本部長 山口文章
東京大学先端科学技術研究センター教授 小泉秀樹
東京大学先端科学技術研究センター 小泉研究室D3 浦井亮太郎



DAY 4

9:00-11:00

SESSION 05

瞑想：自然と一体化した境地 高野山大学提供講座 @大師教会大講堂

統括

東京大学名誉教授 東大先端研 シニアリサーチフェロー 神崎亮平

登壇者

高野山大学副学長・教授 松長潤慶、高野山学園顧問 乾龍仁
富士通株式会社 デザインセンター クリエイティブディレクター/チーフデザイナー 藤原和博
東京大学特任研究員 中上淳貴

12:20-12:35

智辯学園和太鼓パフォーマンス @黎明館

智辯学園和太鼓部「桔梗」

13:00-15:00

クロージング（高野山宣言2023） クラシックコンサート @黎明館

演奏

東京フィルハーモニー交響楽団メンバーによる弦楽合奏

曲目

伊福部昭 『日本組曲』より 盆踊り
O.レスピーギ リュートのための古風な舞曲とアリア第3番 ほか



SESSION 01 和の芸術とデザイン_THINKING WITH NATURE 木桶デモンストレーション 統括：伊藤志信

日時：7月13日(木) 15時00分～17時00分 場所：金剛峯寺大会議室

和 / 芸術とデザイン / ネイチャーセンタード / サステナビリティ / 匠

実施報告

日本思想、和の芸術とデザインは日本の宗教観、自然観が大きく影響しているのではないか。ここでは日本とイタリアからゲストスピーカーを招き、和の芸術とデザイン_THINKING WITH NATUREをテーマにセッションを行った。

初めに伊藤志信が、イタリアでのデザイン活動の中で感じた和と西洋の文化的、芸術デザインの視点での比較研究を紹介し、和の持つ特性を考える投げかけをした。

物質中心の拡張主義から解き離れた現在、これからの和の芸術とデザインの鍵のひとつは、無意識の世界に繋がる“手の知力”にある。日本の木桶の技術で伝統工芸からアートまで幅広く制作をする匠、中川周士氏が、木桶の継承と発展には、芸術、デザイン、建築、技術との融合、また自然の造形に学び、それを活かした自然と人間の智の融合が重要であるという事を講義した。世界で日本に関する展示会のキュレーションを多く手がけ、日本文化についての文献書籍を多数執筆、欧州における日本のアートデザイン研究の第一人者であるミラノ大学准教授、AADアドバイザーであるRossella Menegazzo氏が、多数の事例を紹介し、過去から現代までの日本のアートデザインの素晴らしさ、世界に与える影響力について講義した。

日本には信仰と自然との関わりの中で生まれたアートデザインが数多く存在する。日本人の芸術的感性はその自然観、宗教観に深く関わりがあり、それは私達の未来のデザインの世界にも非常に重要なキーであると考えている。

高野山で行われたこのセッションを通して、自然や宗教観に根ざした和のデザイン、アートが世界的な評価を持つ事、また、AIの台頭する社会に対し、“手の知力”にある無意識の領域が人間の新たな可能性を示唆する事が議論された。

同日、中川周士氏による木桶の伝統的な熟練技による木桶デモンストレーションを行った。和のフレキシビリティやサステナビリティを、実際に見て肌で感じる体験型セッションとなった。



SESSION 01 Japanese art and design_THINKING WITH NATURE with Wooden bucket demonstration

Implementation Report

Japanese thought, Japanese art and design are likely to be greatly influenced by Japan's religious and natural views. Here, we invited guest speakers from Japan and Italy and held a session on the theme of Japanese art and design_THINKING WITH NATURE.

First, Shinobu Ito introduced her comparative research on Japanese and Western culture from a cultural and artistic design perspective, which she had discovered during her design activities in Italy, and asked all to think about the characteristics of Japanese art and design.

Now that we have moved away from material-centered expansionism, one of the keys to the future of Japanese art and design lies in the "intelligence of the hand," which is connected to the unconscious world. Mr. Shuji Nakagawa, a master craftsman who uses Japanese wooden barrel techniques to create a wide range of products from traditional crafts to art, spoke about the importance of the fusion of art, design, architecture, technology, as well as the fusion of nature and human wisdom, learning from and utilizing natural formations, for the inheritance and development of the wooden bucket.

Rossella Menegazzo, associate professor at the University of Milan and AAD advisor, who has curated many exhibitions on Japan around the world and written many books on Japanese culture and is a leading researcher on Japanese art design in Europe, introduced numerous examples and lectured on the splendor of Japanese art design from the past to the present and its influence on the world.

In Japan, there are many art designs that were born out of a relationship between faith and nature. The Japanese artistic sensibility is deeply related to their view of nature and religion, and I believe that these are very important keys for our future design world.

Through this session held at Koyasan, we learned that Japanese design and art, which are rooted in nature and religious views, have a worldwide reputation, and that the unconscious realm of "hand intelligence" suggests new possibilities for human beings in a society where AI is on the rise.

On the same day, Mr. Shuji Nakagawa gave a wooden bucket demonstration using traditional wooden barrel craftsmanship. It was a hands-on session where participants could actually see and feel the flexibility and sustainability of Japanese culture.



登壇者



デザイナー、
東京大学先端科学技術研究センター特任准教授

伊藤志信

Designer and Project Associate Professor
Shinobu Ito



ミラノ大学准教授、AADアドバイザー

Rossella Menegazzo

Associate Professor at University of Milan and AAD Advisor



中川木工芸・比良工房主宰(木桶職人)

中川周士

President of NAKAGAWA MOKKOUGEI
(wooden bucket craftsman)
Shuji Nakagawa

SESSION 02 インクルーシブデザイン 統括：伊藤 節

日時：7月14日(金) 9時00分～11時00分 場所：金剛峯寺大会議室

社会的包摂 / ダイバーシティ / バリアフリー / 当事者研究 / ユニバーサルデザイン

実施報告



異なる自然・社会環境、社会属性をもつダイバーシティの多様な人々を包摂する社会づくりを目指すID/インクルーシブデザインは、自然と人間の和の創造性であるネイチャーセンタードデザインにおける重要な目標であり、方法論でもある。1200年の歴史の中で包摂的な思想を導いてきた高野山において、このIDのあり方を議論していくことは重要であると考え、昨年に引き続きこのセッションを行った。

今回は生物学者で自身が患った障害に立ち向かい東大のID研究を牽引する並木重宏氏と、工業デザイナーで公立大学の学長・理事長を務め、ユニバーサルデザインの著書もある蓮見孝氏を招聘して議論を行った。並木氏からは、障がい者のためのデザインが一般的に広く利用されるようになった、つまりエクストリームからメインストリームになった事例を多く紹介頂いた。蓮見氏からは、デザインは皆が日頃から考えるものであり、専門家だけの行為ではない、つまりデザインはそれ自体がインクルーシブな行為であること、そして自分だったらこうしてもらいたいと思うことをすればよい、という「ノーマライゼーション」がIDの重要な考え方であるという話があった。そして私の方からIDの持つ感性の面では、多くの人の笑顔を包摂すること、つまり「みんなを笑顔にすること」が重要な概念であることを、イタリアデザインの事例も交えて解説した。その後会場からの積極的な意見もあり、全員参加型のコ・デザイン、「和」のクリエイティビティのあり方についての関心の高まりが確認できた。

全ての人に使える単一なもののデザインを目指すユニバーサルデザインに比べ、IDでは、デザインによるエクスクルージョンの定量的評価を行い、障がい者や高齢者などユーザーピラミッドの頂点にいる制約の大きい人々のためのデザインを行うことで、制約の小さいマジョリティの人々にも使いやすいものを生み出す有効な方法であり、結果として多くの人々の笑顔を包摂する社会づくりに繋がることが確認できた。その具体的方法論についても議論を継続していきたい。

SESSION 02 Inclusive Design

Implementation Report



Inclusive Design(ID), which aims to create a society that is inclusive of diverse people with different natural and social environments and social attributes, is an important goal and methodology in Nature-Centered Design, which is the creativity of harmony between nature and humans. We thought it important to discuss this ID in Koyasan, which has led inclusive thought for 1200 years, and held this session as we did last year. This time, we invited Shigehiro Namiki, a biologist and leader of Inclusive Design Lab. at the University of Tokyo who has confronted his own disability, and Takashi Hasumi, an industrial designer,

former president and chairman of a public university, and author of a book on Universal Design, to join the discussion. Mr. Namiki introduced many examples of how design for people with disabilities has become widely used by the general public, in other words, from extreme to mainstream. Mr. Hasumi mentioned that design is something that everyone thinks about on a daily basis and that it is not an act only for specialists, that design itself is an inclusive act. And the idea of “normalization” which you should just do what you would want others to do to you, is an important concept for ID. In terms of the sensibilities of ID, I explained that an important concept is to include the smiles of many people, that is, to “make everyone smile”, using examples from Italian Design. Afterwards, there were active comments from the audience, confirming the growing interest in co-design and creativity of harmony, in which everyone participates.

Compared to Universal Design, which aims to design a single product that can be used by everyone, ID quantitatively evaluates exclusion through design, and creates designs for people with significant limitations at the top of the user pyramid, such as people with disabilities and the elderly. It was confirmed that this design is an effective way to create something that is easy to use even for the majority of people with fewer restrictions, and that it will eventually lead to the creation of a society that is inclusive of the smiles of many people. We would like to continue the discussion regarding the specific methodology.

登壇者



デザイナー、
東京大学先端科学技術研究センター特任教授

伊藤 節

Designer and Project Professor
Setsu Ito



東京大学先端科学技術研究センター准教授

並木重宏

Associate Professor
Shigehiro Namiki



筑波大学名誉教授、札幌市立大学元理事長・学長、現名誉教授

蓮見孝

Professor Emeritus of University of Tsukuba
Former Chancellor, Former President,
Current Professor Emeritus of Sapporo City University
Takashi Hasumi

SESSION 03 次世代育成 ～STEAM 教育と芸術環境創造～ 統括：近藤薫

日時：7月15日(土) 9時00分～11時00分 場所：金剛峯寺大会議室

教育 / 芸術 / 音楽

実施報告

文明開化以降、西洋近代化を推し進めた我が国は、高度な成長を遂げ、成熟した。しかし、安定した社会を望むほどにシステムは強固になり価値観はより収束され、新陳代謝が滞り、多様性を失い、自らの社会が生み出した問題を自らで解決できなくなってきた。このような状況を打破するため、芸術を社会に実装していくことで、概念的、哲学的な面から社会を変容出来ないかと考えた。芸術の社会実装はあらゆる面で行われるべきだが、本セッションでは「次世代育成」の観点からその糸口を探った。

まず一人目の登壇者として、株式会社JERAの代表取締役社長CEO兼COOの奥田久栄氏が、企業活動と芸術活動の関係について紹介し、その理想的な姿を語った。芸術家、学識者、実業家が同じ土俵の上で混じり合い、ぶつかり合うことで、感じる力と考える力の両方が高まり、「新しい価値創造」が可能になるという言葉が印象的であった。二人目の登壇者、声楽家で東京音楽大学教授の小森輝彦氏にはSTEAM教育についてお話しいただいた。詩人ゲーテ、谷川俊太郎の言葉を引用しながら、途中、自身の歌唱も交え、芸術家ならではの新鮮な視点から、『芸術「を」学ぶのではなく芸術「で」学ぶSTEAM教育』を提言された。三人目には、横浜みなとみらいホール館長で東京藝術大学客員教授、AADアドバイザーの新井鷗子氏にご登壇いただいた。東京藝術大学でのインクルーシブアーツ、CVS(共通価値の創造)を音楽ホールに当てはめるアイデア、音楽を使った子どものための行動変容プログラム等の紹介をされ、音楽の社会化による行動変容の創出の可能性を語られた。その後の質疑応答では、価値創造、感性、多様性、精神性、幸福観、など話題が多岐に渡り、次世代育成への関心、複雑さ、重要性を再確認することとなった。

今回のセッションでは、一口に次世代育成と言っても、様々な側面からのアプローチがあり、その手法もまた様々であることが認められたように思う。そのような多様性を保ちながら共存共生するには、感性の違いを尊重し合い、また、ぶつかり合いながら、人と人との関係性を高次元へ昇華していく必要があると感じた。



SESSION 03 Cultivation for Next Generation : STEAM Education and Creating an Artistic Environment

Implementation Report

Since the opening of civilization, Japan has promoted Western modernization and achieved rapid growth and maturity. However, the more we desire a stable society, the stronger the system has become, the more values have become more convergent, metabolism has stagnated, diversity has been lost, and we have become unable to solve the problems created by our own society by ourselves. In order to break through this situation, we wondered if we could transform society from a conceptual and

philosophical perspective by implementing art into society. The social implementation of art should take place in all aspects, and this session explored clues from the perspective of "cultivation for next generation."

The first speaker, Hisahide Okuda, President, CEO and COO of JERA Corporation, introduced the relationship between corporate activities and artistic activities, and discussed the ideal form of this relationship. His words were impressive, as he said that when artists, academics, and businesspeople mix and collide on the same playing field, both the ability to feel and think will be enhanced, and "new values creation" will become possible. The second speaker, Teruhiko Komori, vocalist and professor at the Tokyo College of Music, spoke about STEAM education. Quoting the poet Goethe and Shuntaro Tanikawa, and singing himself, he proposed "STEAM education where students learn 'by' art, not 'through' art," from the fresh perspective of an artist. The third speaker was Oko Arai, Director of Minato Mirai Hall, Visiting Professor at Tokyo National University of Fine Arts and Music, and AAD Advisor. She introduced the inclusive arts at Tokyo University of the Arts, the idea of applying CVS (Creation of Common Value) to music halls, and the behavior change program for children using music, and talked about the possibility of creating behavior change through socialization of music. The Q&A session that followed covered a wide range of topics, including new values creation, sensitivity, diversity, spirituality, and views on happiness, reaffirming the interest, complexity, and importance of cultivation for next generation.

In this session, I think it was acknowledged that the term "cultivation for next generation."

"has many different aspects and approaches, and that there are also many different methods. In order to coexist and live together while maintaining such diversity, I felt that it is necessary to respect the differences in sensibilities, and while clashing opinions with each other, sublimate the relationship between people to a higher dimension.

登壇者



ヴァイオリニスト、東京大学先端科学技術研究センター特任教授

近藤薫

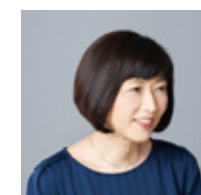
Violinist, Project Professor
Kaoru Kondo



声楽家、東京音楽大学教授、東京音楽大学付属高等学校長

小森輝彦

Vocalist, Professor of Tokyo College of Music,
Principal of Tokyo College of Music High School
Teruhiko Komori



横浜みなとみらいホール館長、東京藝術大学客員教授、AADアドバイザー

新井鷗子

Director of Yokohama Minato Mirai Hall,
Visiting Professor of Tokyo National University
of Fine Arts and Music, AAD Advisor
Oko Arai



株式会社JERA 代表取締役社長 CEO兼COO

奥田久栄

CEO and COO, President and
Representative Director of JERA Inc.
Hisahide Okuda

SESSION 04 高野山のまちと人 統括：吉本英樹

日時：7月15日(土)15時30分～17時30分 場所：金剛峯寺大会議室

まちづくり / 地域コミュニティ / 伝統文化 / 教育

実施報告

高野山全体が総本山という一つのお寺であるという構造の中で、そこには、宗務に直接的に関わらない沢山の人々も暮らしている。そういった人々もまた、弘法大師様に思いを寄せ、その求心力によって高野山というまちが、他のどの都市とも違う、唯一無二の性格をもったものを形づくってきた。このまちやコミュニティのもつ、独特の関係性や時間軸に強い興味を持ち、当セッションを開催した。

登壇頂いたのは、高野山報恩院住職、高野山学園法人本部長を務められ、『新・高野百景』の著者としても知られる山口文章氏、東京大学まちづくり研究室教授の小泉秀樹氏、また小泉氏の研究室に所属する博士課程3年生の浦井亮太郎氏の3氏。まず山口氏の「高野山という装置」と題した講演では、古絵図を辿りながら、高野山の地理的な特徴と、その機能により育まれた精神的求心力により、いかに高野山のまちが形成されてきたかを解説頂いた。次に小泉氏からは、まちづくり研究者としての視点を踏まえて、特に長野県小布施町の事例との比較を通じて、高野山の独自性について講演頂いた。最後に浦井氏からは、自身が高野山中学校で実践している、まちづくり教育のプログラムについて紹介して頂き、高野町の子どもたちと、どのように未来を考えていくかという点について話題提供を頂いた。僧侶、まちづくり研究者、教育者、デザイナー、そして現地の住民としての目線を掛け合わせながら、ユニークな議論を展開できた。ディスカッションパートでは、高野町と和歌山県の行政に関わる方々からも積極的な参加があり、会場全体で高野山の教育・まちとしての未来について考えるような、一体感のある議論でセッションを終えることができた。



仏教・密教の教えとは異なる、地理・地形・行政・教育の視点から高野山を見つめた本セッションは、高野山会議ならではの機会であったと思う。教育と、子供たちのためのまちづくりの視点で盛り上がったことも、興味深かった。未来志向の高野山会議として、このような議論を継続していきたいと感じている。

SESSION 04 The Town and People in Koyasan

Implementation Report

Koyasan is a singular temple, the head temple of the sect, and there are many people living there who are not directly involved in religious affairs. These individuals also hold a strong attachment to Kobo Daishi, and this centripetal force has imparted upon Koyasan a unique character that distinguishes it from any other city. The session was organized out of a strong interest in the unique relationships and timeline of this town and community. The three speakers were Bunsho Yamaguchi, who serves as the chief priest of Koyasan Ho-o-in Temple, the director of Koyasan Academy, and the author of "Shin Koya Hyakkei"; Hideki Koizumi, a professor at the University of Tokyo's Collaborative Community Design Laboratory; and Ryotaro Urai, a third-year PhD student in Koizumi's laboratory. In his lecture titled "Koyasan as a Device," Yamaguchi explained how the geographical characteristics of Koyasan and the spiritual centripetal force fostered by its function have shaped the town of Koyasan while tracing ancient maps. Next, Mr. Koizumi spoke about the uniqueness of Koyasan based on his perspective as a researcher of urban development, especially by comparing it with the case of Obuse-machi, Nagano Prefecture. Finally, Mr. Urai introduced the community development education program he is implementing at a Koyasan junior high school and discussed how to think about the future with the children of Koyasan. The discussion was unique, combining the perspectives of a Buddhist priest, a community development researcher, an educator, a designer, and a local resident. During the discussion part, people including the administration of Koya Town and Wakayama Prefecture actively participated, and the session ended with a sense of unity as the entire audience considered the future of Koyasan as an educational and community center. This session, which looked at Koyasan from the perspectives of geography, topography, administration, and education, which are different from the teachings of Buddhism, was an opportunity unique to the Koyasan Conference. It was also interesting to see the excitement generated from the perspectives of education and community development for children. As a future-oriented Koyasan Conference, we feel that we would like to continue such discussions.



登壇者



デザイナー、
東京大学先端科学技術研究センター特任准教授
吉本英樹
Project Associate Professor
Hideki Yoshimoto



東京大学先端科学技術研究センター教授
小泉秀樹
Professor
Hideki Koizumi



学校法人高野山学園法人本部長
山口文章
General Manager of Corporate Headquarters of
Koyasan Gakuen Educational Corporation
Bunsho Yamaguchi



東京大学先端科学技術研究センター
小泉研究室D3
浦井亮太郎
Koizumi Laboratory
Third year in a Ph.D. program student
Ryotaro Urai

SESSION 05 瞑想：自然と一体化した境地 統括：神崎亮平

日時：7月16日(日) 9時00分～11時00分 場所：大師教会大講堂

瞑想 / 空海 / 瑜伽 / メタバース / DAO

実施報告

本セッションの背景には、自然と人の関係について空海の世界観から再考したいという動機があった。人類が科学技術により受けた恩恵は計り知れないが、自然への過剰な負荷や人工化した現代社会は、環境問題やストレスなどさまざまな課題を生んでいる。これは、人は自然とは別物であり、自然を単に科学技術の対象としてきたことに起因すると考えたからだ。そこで、1200年前に空海が体得した、「瞑想」を通して自然と一体化した瑜伽の境地やその現代社会における価値について多角的に討論することとした。

松長潤慶氏と乾龍仁氏は、「マンダラの宇宙」、「密教の願法」をテーマに、宗教哲学的観点から空海の世界観を説明され、藤原和博氏は、マンダラ的世界観をメタバースを通して現代社会に伝える取り組みについて紹介された。それらを受けてパネル討論では、神崎がファシリテータを務め、中上淳貴氏と、飛び入りで岸本周平和歌山県知事、そしてメディアでもおなじみの安全保障を専門とする小泉悠氏が参加し、科学、デザイン、哲学、宗教そして政治、安全保障の多角的な切り口から討論した。「高野山会議」ならではの多様な意見が披露され参加者を魅了したものと思う。

「瞑想」は単にマインドフルネスという個人の健康やビジネスの手段ではないこと、その精神が身体から抜け出し、昆虫や動植物、そして、石や水、さらには宇宙へと廻り、大自然のあらゆる「いのち」を感じることで、人も自然の一部であることや利他に気づくことが「瞑想」の一步先じた世界観であることを学んだ。そして、政治や経済、さらには戦争という生々しい現実世界に生きるわれわれは、自然とつながることで「いのち」の大切さに気づき、真に人間性ある社会を復興させる必要



性に迫られていることを痛切した。

自然との一体化が、Well-Beingで安寧な社会実現に向けた最後の砦なのかもしれない。本セッションを通して知の拠点、こころの拠点としての「高野山会議」の重要性を再認識し、「いのち」の大切さを「高野山会議」から発信していくことの重要性を実感したセッションとなった。

SESSION 05 Meditation: A State of Oneness with Nature

Implementation Report

The motivation for this session was to reconsider the relationship between nature and people through the perspective of Kukai's worldview. The benefits that humanity has received from science and technology are immeasurable, but the excessive burden on nature and the artificiality of modern society have given rise to various issues such as environmental problems and stress. One of the main reasons for this may be the separation of nature from humans, and the fact that nature has become an object of science and technology. Therefore, we decided to discuss from various perspectives the state of yoga, which Kukai attained 1,200 years ago, in which he united with nature through "meditation," and its value in modern society.

Junkei Matsunaga and Tatsuhito Inui explained Kukai's worldview from a religious-philosophical perspective on the topics of "The Mandala Universe" and "The Esoteric Buddhist Way of Aspiration," respectively. Kazuhiro Fujiwara introduced his efforts to convey the mandala worldview to modern society through the Metaverse.

Following these presentations, Kanzaki facilitated a panel discussion with Atsutaka Nakagami, Governor of Wakayama Prefecture Shuhei Kishimoto, and Yu Koizumi, a security specialist well known in the media, on Kukai's worldview, or the significance of becoming one with nature, from various perspectives including science, design, philosophy, religion, politics, and security. The diverse opinions were expressed in this session were sure to fascinate the participants.

Through this session we learned that meditation" is not merely a means of mindfulness for personal health or business, but it is a step toward realizing that one is part of nature and altruism, as one's mind leaves the body and turns to insects, plants, animals, stones, water, and even the universe to feel all the "life" of nature. This is a worldview of higher spirituality that goes one step beyond what is called meditation as personal mindfulness.

We also realized that we, who live in the real world of politics, economics, and war, are faced with the necessity to realize the importance of "life" by connecting with nature, and to restore a truly humane society. Integration with nature may be the last stronghold toward the realization of a well-being and peaceful society. This session reaffirmed the importance of the Koyasan Conference as a center of knowledge and spirituality, and made us realize the importance of communicating the importance of "life" from the Koyasan Conference.

登壇者



東京大学名誉教授・東京大学先端科学技術研究センター
シニアリサーチフェロー 先端アートデザイン分野研究統括

神崎亮平
Senior Research Fellow
Ryohei Kanzaki



高野山大学副学長・教授
松長潤慶
Vice President and Professor of
Koyasan University
Junkei Matsunaga



学校法人高野山学園顧問、AADアドバイザー
乾龍仁
Advisor of Koyasan Gakuen Educational
Corporation, AAD Advisor
Ryunin Inui



富士通株式会社 デザインセンター
クリエイティブディレクター/チーフデザイナー
藤原和博
Creative Director / Chief Designer of
Design Center of Fujitsu Limited
Kazuhiro Fujiwara



東京大学特任研究員
中上淳貴
Specially Appointed Researchers
Atsuki Nakagami

Arts & Performances

丹生都比売神社 奉納演奏

日時：7月14日(金)12時15分～12時45分

場所：丹生都比売神社

[プログラム]

J.S. バッハ G 線上のアリア

L.v. ベートーヴェン

弦楽四重奏曲 第9番 ハ長調 Op.59-3

「ラズモフスキー第3番」より 第1楽章

[出演]

東京フィル弦楽四重奏団

第一ヴァイオリン 近藤薫

第二ヴァイオリン 戸上眞里

ヴィオラ 須田祥子

チェロ 広田勇樹



リハーサル風景

コンサートシリーズ meets

日時：7月15日(土)11時30分～12時15分

場所：金剛峯寺本坊



[プログラム]

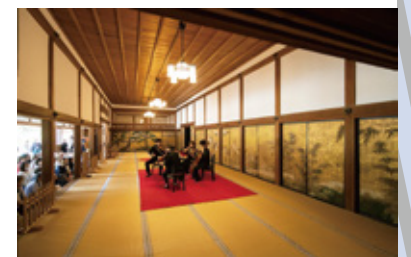
A. ドヴォルザーク

弦楽四重奏曲 第12番

Op.96「アメリカ」

[出演]

東京フィル弦楽四重奏団



澤クワルテット特別演奏会

日時：7月14日(金)19時30分～21時00分

場所：金剛峯寺新別殿



[プログラム]

A. ウェーベレン

弦楽四重奏曲(1905)

L.v. ベートーヴェン

弦楽四重奏曲 第13番

Op.130「大フーガ付き」

[出演]

澤クワルテット

第一ヴァイオリン 澤和樹

第二ヴァイオリン 大関博明

ヴィオラ 市坪俊彦

チェロ 林俊昭

澤クワルテット／1990年11月の結成以来、現在に至るまで一人のメンバー交代もなく、不動のメンバーで春・秋のツアーを中心に充実した活動を展開する、日本屈指の弦楽四重奏団。

クラシックコンサート

日時：7月16日(日)

13時00分～15時00分

場所：高野山大学黎明館



[プログラム]

伊福部昭『日本組曲』より 盆踊り

O. レスピーギ

リュートのための古風な舞曲とアリア 第3番 ほか

[演奏]

東京フィルハーモニー交響楽団 弦楽アンサンブル

コンサートマスター：近藤薫

第1ヴァイオリン 榊原菜若 / 景澤恵子 / 荒井里桜 / 荒井優利奈 / 大谷真結子

第2ヴァイオリン 藤村政芳 / 戸上眞里 / 宮川正雪 / 高瀬真由子 / 戸島さや野

ヴィオラ 須田祥子 / 加藤大輔 / 杉浦文 / 栗林衣李

チェロ 宮坂拓志 / 広田勇樹 / 杉浦彩

コントラバス 菅原政彦

先端アートデザイン展示

日時：7月13日(木)～16日(日)

場所：金剛峯寺別殿

KOYA 木桶による花器、ワインクーラー

デザイン：

デザイナー、東京大学先端科学技術センター特任教授 伊藤節

デザイナー、東京大学先端科学技術センター特任准教授 伊藤志信

制作：

中川木工芸・比良工房主宰・木桶職人 中川周士

この器は、日本が育んだ自然と人間の智の共創の象徴である。自然の創り出した造形に寄り添いながら、人間の智と自然を融合したデザインは、熟練木工職人の匠の技とのコラボレーションである。木には「落ち着く」「和む」「暖かみを感じる」など癒しの効果があり、日本文化・日本の歴史の中に重要な役割を果たしてきた。杉の木には、心地よい木の香り、心地よい触感があり、人にとって相性のよい自然素材である。神社の境内には必ずといってよいほど杉の大木があり、参道には杉並木が植えられている。大木は風雪から社を守り、人々の精神を支える支柱としての役割を果たしてきた。また、災害対策や、二酸化炭素の吸収率が高いため、地球温暖化の軽減にもつながっている。日本の杉は地面から垂直にまっすぐ成長する特性があり、切り出す時に直線的な木目が現れ、見た目も美しく通気性や防水性が高い性質があり、古くは酒樽や造船の原料としても使用されてきた。自然の木の表情をできるだけそのまま生かしたデザインは、匠の手により、年輪に沿って割った板を削

り、タガで締め付け立体にし、柔らかくデザインされた機能的な底面から、上方向に向かって自然が沸き立つように姿を変えていく器であり、自然美、無心の美、素材美、機能美を併せ持つ、ネイチャーセントードデザインを目指した作品である。



DAWN

デザイン：

デザイナー、東京大学先端科学技術研究センター特任准教授 吉本英樹

制作：

株式会社箔一、株式会社リプス・ワークス、INCAMS



熟練した職人の手業によって貼り合わせられた箔に、最先端のレーザー加工技術(超短パルスレーザーカッター)によって極めて微細なメッシュ状の穴開け加工を施し、そこを透過する光と箔が生み出す表情を具現化した作品。紀元前から続く箔の歴史において、光が向こう側から透ける、透過光による表現は、全く新しい発明。タイトル「DAWN(夜明け)」には、伝統工芸の歴史に新たな1ページを刻みたいという思いが込められ、その夜明けをさらに高次の宇宙から見返したような情景、恒星と惑星が織りなすような光の情景が表現されている。

本作は、日本の金箔の98パーセント以上を生産する金沢にあって、その中心的な担い手であり、伝統を守りながら様々な新しい挑戦を続けている「箔一」とのコラボレーションにより制作された。長い歴史を持つ伝統工芸に、現代的な先端技術を掛け合わせて新しい表現を模索し、現在進行形の生きた技術として未来へ繋いでいく。そして未来から振り返ると、それが伝統の新しい1ページとして紡がれている。そのような発展を目指したコラボレーション。

本事業は、東大先端研と、包括連携協定を結ぶ石川県が、共同で資金を出資して運営する「共同研究創出支援事業」に令和4年度に採択され、支援を受けたものである。

先端アートデザイン分科会

日時：7月15日(土)13時30分～15時00分

分科会 A @宿坊 恵光院 宇宙とテクノロジーとデザイン 主管：吉本英樹



本セッションでは、先端アートデザイン分野（AAD）で進めている「宇宙 × デザイン」プロジェクトの特別企画として、高野山の宿坊・恵光院の阿字観道場を会場としてワークショップを実施した。前半では、AAD社会連携研究部門に参加する株式会社リクルートより鹿毛雄一郎氏と今井隆文氏、およびAADの客員研究員である東京都立大学准教授の田中聡一郎氏をファシリテーターに迎え、住まい・教育・結婚・食など、我々の生活のさまざまな要素と宇宙の繋がりを想像し、アイデアを創発するグループワークを行った。研究者・デザイナー・音楽家・宗教家・そして地元和歌山の方々を含む、様々なバックグラウンドの参加者が、互いに議論を白熱させた。後半では、恵光院の近藤説秀住職の指導による阿字観を全員で体験し、その独特の一体感を味わいながら、密教が説く我々と大宇宙との繋がりに想像を馳せ、まさに高野山ならではのセッションとなった。

分科会 B @宿坊 報恩院

自然と共生するまちづくり～里山から聖域・霊場まで～ 主管：近藤薫

- 1、北ハノイの開発について（住友商事 兵頭宣俊）
- 2、長久手市の街づくりの取り組みと課題について（長久手市企画政策課 千葉あい）
- 3、高野山のまちづくりの歴史について（高野山大学 山口文章）



それぞれに背景の違うまちづくりについて、工夫された資料、動画を使っのプレゼンテーションにより、参加者が理解を深めることができた。

ディスカッション

住友商事 兵頭宣俊氏による進行のもと、登壇者及びAAD社会連携部門に参加するソニーグループ株式会社 宮崎由香子氏、日本たばこ産業株式会社 渡邊溪氏を中心となり参加者とのディスカッションを行った。特に1200年続く高野山のまちづくりと森林経営についての関心が高く、活発な議論が展開された。

分科会 C @金剛峯寺

包摂社会のためのコデザイン 主管：伊藤節

日本における包摂の思想を1200年に渡り説いてきた高野山金剛峯寺を会場とし、AADインクルーシブデザイン研究の発表を行った。AAD社会連携企業の協力研究員としてAADインクルーシブデザイン研究を進める資生堂クリエイティブ株式会社の和久井 裕史 研究員、マツダ株式会社の木村 幸奈 研究員と池尾 雄介 研究員、日本たばこ産業株式会社D-LABの奥井 アキラ 研究員が、それぞれの研究進捗の発表を行った。和久井氏はINCLUSIVE BEAUTYをテーマに障害者の積極的な化粧を促す化粧品パッケージデザイン開発研究を、木村氏と池尾氏はSELF EMPOWERMENT DRIVINGをテーマに下肢障害者が運転を



楽しむための車両デザイン開発研究を、奥井氏はINCLUSIVE FULFILLING MOMENTSをテーマにした嗜好品のデザイン開発研究について発表を行い、会場に集まったセッション02（インクルーシブデザイン）関係者や本テーマに関心のある方々との活発な意見交換が行われた。

高野山麓エクスカーション

高野山麓地域の文化、産業を理解し、地域振興に繋がる交流の在り方を探るため、橋本市高野口地域(＝地場産業として発展したパイル織物の産地)とかつらぎ町天野地域(＝高野山の地主神でもある丹生都比売神社を中心とした文化的地域)をモデルエリアとしたエクスカーションを実施した。

橋本市高野口地域

文化財の視察

国指定重要文化財

「旧高野口尋常高等小学校校舎」(2014年1月27日)

1937年築、木造、建築面積 3,543.72 m²、寄棟造、桟瓦葺 1 棟

現役の小学校として使用されている日本最大級の木造校舎。関東大震災や第一室戸台風などの災害を経て発展、改良された戦前期の木造校舎建築の到達点というべき特徴を良く示しており、歴史的価値が高い。

国登録有形文化財「旧葛城館」(2001年11月20日)

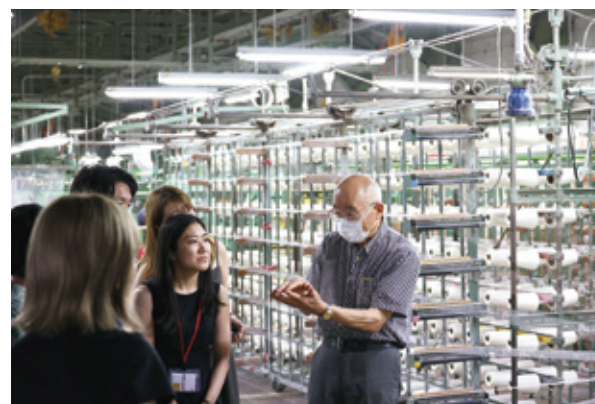
明治後期、木造 3 階建、瓦葺、建築面積 113 m² 1 棟

JR和歌山線高野口駅前に北面して建つ木造3階建和風旅館建築。



ワークショップ

テーマ：「地域産業の未来」 紀州繊維工業協同組合



紀州繊維工業協同組合による展示

高野口小学校での意見交換



紀州繊維工業協同組合 杉村理事長からパイル織物の歴史、特徴について説明いただき、様々なテクスチャーの生地や製品を見学、今後の課題について意見交換を行った。

In Hashimoto City's Koya-guchi area, we explored the "Former Koya-guchi Elementary School Building," Japan's largest wooden school, a designated cultural treasure. We also hosted a workshop on "The Future of Local Industries" with Mr. Sugimura from the Kishu Textile Industry Association.

かつらぎ町天野地域



ワークショップ

テーマ：「薔薇と神社と地域振興」



[丹生都比売神社 ご由緒講話・奉納演奏]

・ご由緒講話 丹生晃市宮司
・奉納演奏

[プログラム]

J.S. バッハ G 線上のアリア

L.v. ベートーヴェン

弦楽四重奏曲 第 9 番 ハ長調 Op.59-3

「ラズモフスキー第 3 番」より 第 1 楽章

[演奏]

東京フィル弦楽四重奏団

第一ヴァイオリン 近藤薫、第二ヴァイオリン 戸上真里、

ヴィオラ 須田祥子、チェロ 広田勇樹



丹生都比売神社の「薔薇」

町政概要レクチャー
中阪雅則かつらぎ町長



丹生都比売神社に所縁の深い「薔薇」を神社のブランドのひとつとして浸透させ、地域振興に繋げるため、丹生晃市宮司から薔薇と神社の歴史や文化についての講話を聴講、ブランド化につながるアイデア出しワークショップを行った。

We conducted an excursion in the Amano area of Katsuragi Town. Activities included a classical concert at the Niutsu-hime Shrine, interactions with local producers, and a workshop on regional branding focusing on "roses," deeply associated with the shrine, fostering deeper regional understanding and lively exchanges of opinions.

連携協定式

連携協定のもと、地方創生、産業振興、STEAM教育の振興、高野山会議の発展のため様々な取り組みを進めていきます。



橋本市

橋本市長

平木哲朗

東京大学先端科学技術研究センター 所長

杉山正和



かつらぎ町

かつらぎ町長

中阪雅則

東京大学先端科学技術研究センター 所長

杉山正和

写真中央：高野山会議ファウンダー 神崎亮平

高野山宣言2023

— 自然との協調と共存がはぐくむ多様な人々の安寧と幸福 —

いま時代は大きく動き、自然環境と人間社会はそのかたちを変えつつあります。そのような時代にあって、多様な人々の安寧と幸福には、個性豊かな感性と理性、そして倫理性をもって、一人ひとりが協力し共存できる社会を構築し、持続させていくことが大切です。そのような社会の実現に向け、わたしたちのこれからの在り方、そして未来のすがたを考え、かたちづくるため、ここに「高野山宣言2023」を宣言します。

1. 人間中心から自然中心への視座の転回

人を自然から切り離し、自然からは恩恵のみを享受するという、これまでの人間を中心とした視座から脱却し、人もまた自然の一部であり、あらゆるものとの関係性の中で生かされているという視座の転回が、多様な人々の安寧と幸福な社会を築き持続させていくうえで重要となります。わたしたちは、このような視座の転回を実践し、芸術・科学・宗教などさまざまな角度からその重要性と意義を発信していきます。

2. 未来を担う子どもたちの育成

未来を担う子どもたちには、個性豊かな感性と理性、そして倫理性を育むことが重要です。そのような育成のために、芸術と科学そしてこころがゆたかになる教育の環境を創造していきます。高野山をひとつの場として、その重要性と意義を発信していきます。

3. 高野山会議の開催

芸術・科学・宗教をはじめとするさまざまな分野にかかわる多様な人々が集い、前項1、2をひろく実現するため、その対話と実践、発信の場として「高野山会議」を高野山金剛峯寺にて開催していきます。

「高野山会議2023」では、以下を1200年後の未来のためのメッセージとし、「高野山会議2024」につなげていきます。

- 「六大無碍にして常に瑜伽なり」。すべての命を生かしあい、互いに命を輝かせあうことができる世界へ。
- 自らの内と外の宇宙を俯瞰し、和の心をもって共創する。
- 自利利他。支配から奉仕へ。万物の調和をもたらす科学技術をつむぎ、1200年後の世代に地球をつなぐ。
- みんなの力で、これまでのパラダイムを超える新しい価値感を創造し、実践する。
- 「持続可能なまちづくり」は、歴史文化を知るふさと教育から始まる。

高野山で育つこともたちが高野山会議とともに豊かに成長していくことを願う。

東京大学名誉教授 先端科学技術研究センターシニアリサーチフェロー
Emeritus professor and Senior Research Fellow of RCAST, the University of Tokyo

東京大学先端科学技術研究センター所長・教授
Director and Professor, Center for Advanced Science and Technology, Tokyo University

総本山金剛峯寺執行長・高野山真言宗宗務総長
Executive Director, Kongōbu-ji Temple General Manager of Shingon Buddhism, Koyasan

和歌山県知事
Governor of Wakayama Prefecture

高野町長
Mayor of Koyasan

高野山大学学長
President of Koyasan University

令和5年7月16日

神崎亮平
Ryohei Kanzaki

杉山正和
Masakazu Sugiyama

今川泰伸
Taishin Imagawa

岸本周平
Shuhei Kishimoto

平野嘉也
Yoshiya Hirano

添田隆昭
Ryusho Soeda

Koyasan Declaration 2023

The "Koyasan Declaration 2023" emphasizes creating a society where diverse individuals cooperate and coexist peacefully amidst global changes. It advocates shifting from a human-centered to a nature-centered perspective, nurturing children with diverse qualities, and convening the Koyasan Conference to promote dialogue and action across various fields for realizing these goals.

東京フィルハーモニー交響楽団メンバーによる 学校訪問コンサートの開催

日時：7月13日(木)10時45分開演

場所：高野町立高野山小学校・体育館



7月13日(木)に学校訪問コンサートを開催しました。高野山小学校体育館に、高野山小学校・花坂小学校・高野山中学校の児童・生徒らが集まり、近藤薫特任教授が率いる弦楽四重奏の調べと、音楽や作曲家にまつわるお話に、聞き入りました。鑑賞した生徒から、「きれいでかっこいい曲を作れたりできるモーツァルトさんたちがすごい(小4)」 「4つの楽器は、それぞれの音の高さ・リズム・音の大きさ、全くちがう事をしているのに、1つの音楽になって、色々な人の心にとどいて、その作曲した人の思いや出来事を伝えることができるゆいいつの物だし、クラシックは、そのような感情をまとめた物だから、人によって聞こえがちがうからおもしろい(小6)」といった感想が寄せられました。



高野山会議2023協賛

< 寄付金 >

築野グループ株式会社、株式会社丸和 代表取締役 丸山昌三様

< レセプション協力・協賛 >

● 試食、おみやげ

高野町

株式会社Agrisus(クラフトビール天空般若)、角濱ごまとうふ総本舗(ごまとうふ)

橋本市

紀州繊維工業協同組合(パイル織物)、農業法人くにぎ広場・農産物直売交流施設組合(はたごんぼコロッケ、はたごんぼ／展示)、紀州製竿組合(紀州へら竿／展示)

かつらぎ町

OUTDOOR LIFE STYLE Orange(ほりにし)、紀州食品株式会社(みかんジュース)、木村農園(桃)

和歌山県

株式会社福菱(かげろう)、有限会社紀南水産(まぐろ山椒とろ炊き、炙りくじら)、株式会社内芝ファーム(まごころ絞りたて有田産みかんジュース、同不知火ジュース、同清見ジュース)、マルヤマ食品株式会社(紀州うす塩梅「匠」、紀州こんぶ梅、紀州しそ漬梅「技」)、株式会社ファイブワン(じゃばらあられ)、社会福祉法人ふじの会就労継続支援B型・生活介護みなみ工房(藍染スカーフ 絹・模様)

● 地酒・梅酒 (アレンジ：和歌山県)

梅 酒：18銘柄

地 酒：13銘柄

● フード企画・調理

カフェ客殿、天風てらす、中央食堂さんぼう、ファミリーマート高野山店



< コーヒーブレイク ケータリング >

高野山金剛峯寺、高野町、和歌山県

AADパートナー企業[社会連携研究部門]※

株式会社資生堂

住友商事株式会社

ソニーグループ株式会社

日本たばこ産業株式会社

マツダ株式会社

ヤマハ株式会社

株式会社リクルート

BLBG株式会社

日本電気株式会社

富士通株式会社

※2023年7月16日現在

ご参加いただいたAADアドバイザーの皆様※

佐藤恵子(キュレーター)

杉浦滋彦(美術研究家、企業経営者)

宇田哲也(富士通株式会社デザインセンター長)

信藤洋二(資生堂クリエイティブ株式会社

シニアクリエイティブディレクター)

※役職は2023年7月16日現在

Special thanks

開催にあたり多くの皆様にご協力いただきましたことに深く感謝申し上げます。

東京大学先端科学技術研究センター 所長 杉山正和、シニアリサーチフェロー 神崎亮平

同 先端アートデザイン分野

特任教授 伊藤 節、特任教授 近藤 薫、特任准教授 伊藤志信、特任准教授 吉本英樹、

特任専門員 日根かがり、特任専門員 松口直樹、秘書 近藤友紀子

● 連携協定機関代表

高野町長 平野嘉也、総本山金剛峯寺執行長 今川泰伸

高野山大学学長 添田隆昭

和歌山県知事 岸本周平



高野町長
平野嘉也

総本山金剛峯寺執行長
今川泰伸

高野山大学学長
添田隆昭

和歌山県知事
岸本周平

● (新規)連携協定機関代表

橋本市長 平木哲朗、かつらぎ町長 中阪雅則

● 運営(敬称略、50 音順)

高野山金剛峯寺:稲生昌大、岩西彰真、藪邦彦

高野山大学:山口文章

高野町:岡北修治、茶原敏輝、辻本和也、西岡敬

和歌山県企画総務課:今本祐輔、大谷拓未、木村恵、瀬川尊貴、山本晃佑

和歌山県食品流通課:大嶋功資、十川太輔

和歌山県移住定住推進課:杉本吉美、鳥居洋木、山下隼人

伊都振興局:井村容子、岩崎有子、城谷智樹、中野尚、平井秀和、船富由紀、前田悠衣、山田祥美、山本紗矢香

和歌山県東京事務所:尾藤道隆、湯川学 東京大学先端科学技術研究センター派遣:メ木貴之

橋本市:今田実、北岡慶久、土井加奈子

かつらぎ町:植田尚雄、齊藤弘一、中崎善子、名迫祐美、藤上勝海、森脇市郎

● エクスカーション(天野)

赤松祀美(BLOOM&BERRY)、阪本晃一(移住者、ジビエ製品製造販売メツケライサカモト)、佐藤 恵(天野の里づくりの会)、谷口千明(天野の里づくりの会)、戸田真寿(移住者、戸田農園)、永田元氣(移住者、養蜂家)、丹生晃市(丹生都比売神社)

● エクスカーション(高野口)

大矢由美(旧葛城館)、榊洋史(高野口小学校)、杉村泰久(紀州繊維工業協同組合)、妙中正司(妙中パイル織物株式会社)、妙中清剛(妙中パイル織物株式会社)、西正幸(紀州繊維工業協同組合)、福嶋一倫(紀州繊維工業協同組合)、守内起代美(守内ガラス店)

● 分科会会場提供(宿坊)

恵光院、報恩院

● 学校訪問コンサート(高野山小学校)

大谷智士、岡本浩二

● 撮影 メゾンフォトグラフィ

照井壮平

紀州繊維工業協同組合理事長 杉村泰久様が2024年2月8日にご逝去されました。

本会議への多大なるご理解ご協力に感謝申し上げますとともに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。